

九九六年五月一日

第三種郵便物認可

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行







コナ時代を生きる

ようか。 つ人たちの生き方やくらしをどう支援すればいいのでし コロナとのつき合いが長くなりそうな今、知的障害を持

緊急事態宣言中でも、私たちは日中活動の場も、

グル

や体温測定のほか、 をした時は、職員が引き受けることを覚悟しながら、 プホームも通常どおりに運営してきました。当事者が感染 迅速なPCR検査、 次の3つに取り組んでいます。 血中酸素濃度の計測、 感染者のため

一軒家の準備

心と体を元気にして免疫を上げる。

使っています。そして週に2、3回、 キングで体を元気にしています。 食事には玄米ご飯と無農薬野菜など体にやさしい食材を 1時間程度のウオ

みんなで楽しみながら活動する。

うにくらす」を続けるための工夫を考えたのです。 ました。しかし、緊急事態宣言解除後は、コロナが収束す るのを待つ受け身の姿勢を止めました。大切な理念である 「自分で決める」や「どんなに障害が重くても地域でふつ 現在、当事者会議、パンジーメディアの作品の上映会、 緊急事態宣言中は、外での活動や多人数の会議は中止

再開しています。 がめいってしまいます。みんなで元気に話し合ったり活動 したりすることが大切だと気づいたのです。 コロナの感染防止だけでは、ストレスがたまり、 心や体 淑美)

週1回の調理実習などは、形を変え3密にならないように

「ピープルファースト」~私の始まり~



「ピープルファースト」と初めて出会ったのは5年前だった。ドキュメンタリー映画『あいむはっぴぃ!と叫びたい』の撮影で訪れた第21回大会。神戸の会場に全国から集まった多くの知的障害者が、自分の思いを堂々と発言する姿に圧倒された。

翌年の横浜大会の撮影では、「津久井やまゆり園事件」の犠牲となった人たちを追悼する彼らの気持

ちに、同じ障害を持っている人たちの強いつながりを感じた。 ドキュメンタリー映画「みんなに伝えたいこと〜ピープル ファースト25年のあゆみ〜」の制作では、この活動を始め た日本のパイオニアたちの強い心に感動した。

ピープルファーストの考えが生まれたのは、いつ、どこ

で? 日本で始まったきっかけは? 文献や過去の映像に触れ、初めてピープルファーストを体験した人の言葉を聞き、日本で活動を始めた人の思いを知り、彼らの気持ちをどう映像で伝えればよいのか悩んだ。映画の制作過程は、私の中のピープルファーストのあゆみだった。

1974年、アメリカのオレゴンで一人の知的障害者が発した言葉「私はひとりの人間として扱われたい―・・・・・・」。

その年の集会では、すでにピープルファーストの目標が発表されていた。そして20年後、日本で初めて開かれた知的障害者の集会。当時、日本では「コロニー」と呼ばれる入所施設が造られ、多くの知的障害者が、そこで地域と離れた暮らしを余儀なくされた。社会では、彼らに対する偏見や差別は普通だった。その中で「私たちもひとりの人間」と声を上げた人たち。彼らのその勇気は、どれほどのものだったのだろうか。

日本人で初めてピープルファーストを体験した一人、生田進さんが「この25年で社会は良くなったのだろうか・・・」と語り、活動の中心を担ってきた一人、土本秋夫さんの「自分を信じること」「なかまを信じること」という言葉。編集しながら何度も何度も彼らの声を聴き、それは、私にも伝えたいことではないのかと思った。

ドキュメンタリー映画「みんなに伝えたいこと」監督 パンジーメディア エグゼクティブプロデューサー 小川 道幸

『自分らしい生活』を楽しむ姿を見てほしい 障害者たちの放送局が伝えたい思い



やまゆり園事件がおきてから 4年あまり。パンジーメディ アでは、やまゆり園事件につ いて、当事者の立場から発信 をし続けてきました。

そんなパンジーに、関西のニュース番組「ミント!」から取材依頼がありました。

パンジーの紹介を通じて、知 的障害を持つ人たちがおかれ てきた状況や、やまゆり園の 事件の背景には根強い差別が あること、そして地域で仲間

とくらすことの大切さが伝わる番組になってほしいと、取材を受けることにしました。

ミントのスタッフさんたちは、パンジーⅢやスタジオでの番組、「きぼうのつばさ」の出張上映会、グループホームなどを3日間かけてじっくり撮影し、当事者の人たちのことばに耳を傾けていました。丁寧な取材が印象的でした。放送を見た当事者の感想を紹介します。

福田直美「キャスターをがんばっていますね、と言われたことが嬉しかった。養護学級じゃなくて普通学級に行きたかったことなど、自分の思っていることを話すことができてよかった」。

樋口廣「大きなカメラが真正面に来て最初びっくりした。何でメディアをしているのか聞かれ

て、世界中の人に見てもらうためにと答えた。言いたいこと が言えてスッとした」。

井道寛哉「津久井やまゆり園について、チーフプロデューサーとしてやってきて何を思うかなどを文章にしました。取材を終えて、質問に受け答えができたことが本当に嬉しかったです」とのことでした。

そして、皆が同じく口にしたのが「パンジーメディアをやってきてよかった」と言うこと。メディアをやり続けていること、テレビで紹介されたことが、自信になっていることを感じます。(吉田)

ntml

https://www.mbs.jp/mint/news/2020/08/06/078796.shtml 「ミント」のホームページから内容を見ることができます。

んなで観ると、1人で観るよりも



インターネット放送「きぼうのつばさ」の配信を始めて、もう4年が経ちました。 興味をもって観てくださる人が多くなってうれしいのですが、気がかりが一つあります。知的障 害を持つ人は、インターネット放送をまだまだ自由に見ることができないのです。

そこで始めたのが、「きぼうのつばさ」の出張上映会です。これまでに、奈良の「ちいろば

園」さんや、「ひまわりの家」さんなどに出向い て上映しました。そして先日は、東大阪の「草の 根共生会」さんに行きました。

大きなスクリーンに映された「きぼうのつば さ」をみんなで観た後は、感想を話し合う時間で す。最初はおずおずと発言していた人たちが、次 第に積極的に思いを伝え始めました。

「やまゆり園のような事件は、2度とおこってほ しくありません」

「てまり寿司おいしそう!食べたい!」

「私も、初めての場所は苦手です。だから、上田さん (出演者) の気持がよくわかる」

みんな、話すのが好きで、聞いてもらうのが大好き なんですね。ただ、機会が少なかっただけ。そして、 職員の発言も熱心に、聞いていました。

上映会いいですね! 当事者だけでなく、職員も場 も活気づく。みんなで観ると、1人で観るよりも3倍 もお得です。

出張上映会をご希望される方は、気軽に声をかけて

ください。当事者の人たちと、どこへでも出か けます。もちろんコロナの状況によりますが、 どんな形で開催するかは、相談をしながら進め たいと思います。



(林)

連絡先

パンジーメディア: Tol. 072-968-7151

Mail: pansy-media@pansy-net.or.jp



土地を耕すところからのスタート

各場だより

有機野菜づくり



一つの畑は、草ぼうぼうの空き地で、物)、サツマイモを植えました。にはオクラ・きゅうり・カボチャ・にはオクラ・きゅうり・カボチャ・にはオクラ・きゅうり・カボチャ・二つヤ・ラグビースイカ(東大阪名薬で野菜を作り、自分たちの昼ご飯薬で野菜を作り、自分たちの昼ご飯

に自信のあるスタッフでも、こうザクと土を反していきます。体力地返し」が得意な山本さんは、ザク畑を作るために最初に行う「天







はいきません。

「天地返し」の後に畝を作り、苗を植え、水をやり、草を抜き、きゅうりやゴーヤには竹の支柱でネットを設置します。全て手作業です。上の生き物たちが有機物を分解し、植物が水とともに吸収して栄養を作っていくのがわかります。地球上の生き物はすべて食物連鎖でつながっていることを感じるのです。有機野菜作りが人にも環境にも優しい活動につながれば良いなあ。

うぞお楽しみに!(上家) やの無事根付きました。今後の報告をど 人と 秋の収穫に向けてサツマイモも るよ

* たんねんトリオー

しい!」と大好評でした。ところ、職員や知り合いから「おいしています。まずは内輪から始めたでおいしいおかきを仕入れて販売でおいしいおかきを仕入れて販売のおいができます。

ができるようになりました。7月からは、地域の学校へも販売

やの彼は、地域への配達には、なかりから外に出て、パンジーⅡに通えりから外に出て、パンジーⅡに通えのから外に出て、パンジーⅡに通えをようになった仲野さんが積極的に参照達には、仲野さんが積極的に参

した。

そんな仲野さんが、く!」と手を挙げるようになりました。配達方になりました。配達たで、おかきを受け取んでくれた先生が喜んでくれることがうれしいみたいです。



中野さんは、去年からネイチャークラブの活動にも参加しています。 こうしたことから、自分に自信が持 こうしたことから、自分に自信が持 て、人との関わりを楽しめるように なってきているのかもしれません。 さて、写真の3人がおすすめする のは「割れたんねん」「やいたんねん」 「一枚たんねん」。3人合わせて、た んねんトリオ! みなさま、おかき はいかがでしょうか。たんねんトリ オがお届けにあがります!(近場の みになります) (吉野)

オリジナルマスク!

スクを作りました。 この日は、みんなでオリジナルマ

で作っているマスクを見せてもら いうことになったのです。 「できるの?」とびっくり。でも布 理事長から奈良の『ひまわりの家』 自分たちも作ってみよう! スクを作るとみんなに話すと لح

中でも人気は、阪神タイガー んなわくわくしていました。 選びとなると「僕はピンク色にする」 「私は花柄がいいな」と、み 有光さんは自分のマスク

作っていました。

着けて、とても満足そう。 なオリジナルマスクが出来上がり ました。自分たちで作ったマスクを 0 ヒモ通しをして完成です。個性的 形 は職員が作り、みんなは仕上げ

だからこそ、こんな楽しみを見つけ 状況は続いているけれど、そんな時 販売に行けなくなったりと大変な 影響で、色々な活動が縮小されたり 事者の人たちの姿を見て、コロナの 一生懸命マスクを作っている当

ていきたいなと思 見てください! の作ったマスクを いました。みんな

(俊作)

ドラえもんのマスクと2

膨らむ創造力

形作家の山端篤史さんと一緒にア い者アートリンク事業」により、造 ートを体験しています。 パンジーVでは、 高松市の「障が

ぱいに広げていくのです。 と、みんな楽しんで、自由に描いて あがります。しかし画用紙に向かう を描くのはへたくそやけん」と声が ーマが出されます。すると、当事者 いきます。エネルギーを画用紙いっ の人たちから「できるかな?」「絵 「今日は野菜を描きます」などとテ 創作活動の日は、山端さんから

を貼りました。そうして出来上が の共同作業を楽しみながらシール するのが苦手な高木さんは、職員と ルを貼っていきました。また、集中 の束を手に取り、夢中になってシー 知的障害のある山下さんは、シール 用紙と色とりどりのシール。重度の たのがこちら、オンリーワンのすば ます」と渡されたのが、真っ黒い画 さて、この日、「シール絵を描



らしい作品です。

した。 ちの新たな面を見ることができま ています。 えてきたらいいなあと、わくわくし 創作活動を通して当事者の人た 僕もみんなの自己表現力が増







大川誠さんの地域生活

色んなことに対して「めど」を持て るようになり、落ち着いて過ごせる ら 度行動障害を持つ人だ。じっとして 見ると、積み重ねによって得られた ち着いて髪を切られる大川さんを り座り、 だった。店に入ってすぐに待合のソ ごせるか心配したが、取り越し苦労 に行った。コロナの関係で、しばら いる必要があった。今でも病院や知 いる事ができず、そこら中をウロウ 施設からパンジーに来た、重度の強 た大川さんになった。散髪屋で、落 ファーに座り、準備ができるまで待 く行けなかったので、落ち着いて過 つ事5分。散髪中も最後までゆっく いられない。 ない場所では一瞬たりとも座っ 大川さんは10年ほど前に入所 のの大きさをしみじみと感じる。 大川誠さんと散髪屋に髪を切り 激しい要求があり、常にそばに 棚や冷蔵庫を何度も開け閉め 顔剃りもでき、さっぱりし しかし経験の中で、

場所や状況を増やしていった。

川さんがそこにいた。
川さんがそこにいた。
回を重ねるうちに、支援者が1人

きたいと思う。(野村)も小さな積み重ねを大切にしてい積み重ねが大きな安心を生む。今後得るまでに積み重ねた支援。小さなできたのだと思った。その安心感をできたのだと思った。その安心感をできたのだと思った。



* まっすぐに思う

を語ってくれた成松真吾さん。の「私の歴史」で、これまでの人生の「きぼうのつばさ」第38回放送

を心配していました。その時に、病気のお母さんのこと

看病しました。それから1週間近く泊まり込みで知らせが入りました。成松さんは、っていたお母さんが危ないというっていたお母さんがたないという

たかった」。
「お袋は意識がなかったから分

しい」と。
に親孝行がしたいんや。いさせて欲心配した私の言葉に対しても「最後仕事を休んで給料が減ることを

ました。享年73歳でした。 0年の闘病生活の末に亡くなられ 7月9日、お母さんは、およそ3

松さんは、毎朝、お水とお花を替え、骨まで預かることになりました。成で遺骨はお兄さんに頼みこみ、納

線香をあげています。

を何度も経験しました。
さんには、家族との楽しい思い出があまりありません。大人になってかあまりありません。大人になってからも、厳しい出来事の連続で、挫折

遺骨を前に「もっと話を聞いて欲大切に思い続けています。

それでもなお、お母さんのことを

その姿勢こな気と感じげこは、人をまっすぐに見て、迷いなく、しかったな・・」と語ります。

られませんでした。 (福岡)その姿勢に敬意を感じずにはい



書き損じハガキ、(未使用)切手を送ってください!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

寺野享子・小木曽茂子・中森治子・宮田程子 (敬称略)

パンジーでは、後援会員を募集しています。

| 賛助会員 | 1 口 | 1 加月 | 5 0 0 円 | 本会員 | 1 口 | 1 加月 | 1,0 0 0 円 | 特別会員 | 1 口 | 1 加月 | 3,0 0 0 円 | 郵便振替番号 | 00950-1-300551 | かずんだって、かないた方 > 小木曽茂子・すみれ会



編集人

東大阪市東鴻池町 2-4-8 クリエイティブハウス TEL:072-963-8818 「パンジー」 FAX:072-963-8825

発行人

関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル4階

編集後記

色んなところから機関紙が届く。障害者 運動を支えて一つの時代を創ってきた 人たちの文章には力があるなあ。(よ)